

研究経過報告（平成元年9月～平成2年8月）

原 岡 一 馬

この一年間に行った研究活動の概要を述べることにする。

I. 著書関係

著書の執筆関係については、

- (1) 『ヒューマンエラー—その発生原因と防止対策—』
原岡一馬編著, 1989, アイ・エヌ・ジー出版部
- (2) 『教師の成長を考える』, 原岡一馬編著, 1990, ナカニシヤ出版
- (3) 『社会の中の人間』, 原岡一馬・長田雅喜編著, 1990, 福村出版
- (4) 『人間とコミュニケーション』 原岡一馬編著, 1990, ナカニシヤ出版,
の4冊を執筆した。

また、事典執筆としては、「態度：態度の成分、態度の機能、態度の形成、態度変容」「態度測定：態度尺度、態度項目の選択基準、主な態度尺度法」1990『新教育学大事典』 第一法規出版 pp. 69-71. を執筆した。

II. 教育・心理関係研究論文および雑誌論文

研究論文については、

- (1) 「教師の自己成長に関する研究」, 1989, 名古屋大学教育学部紀要—教育心理学科—, Vol. 36, 33-53.
- (2) 「授業と学級の新しい形を探る」, 1990, 教育心理学年報, 第29集, 17—23.
- (3) 「地域福祉の問題と実態」, 1990, 文部省特定研究「教育の場における相互作用の実証的総合研究」, 71-118.
- (4) 「青少年育成の問題と親の意識」1990, 文部省特定研究「教育の場における相互作用の実証的総合研究」, 119-132.

を発表した。

教育・心理関係雑誌論文には、

- (1) 勉強好きにする学級, 「児童心理」, 金子書房, 1989, Vol. 43, 14, No.11, 57-61.
- (2) 子どもにとってよい環境とは何か, 「教育心理」, 日本文化科学社, 1989, Vol. 37, No. 11, 6-11.
- (3) 学業に動機づけ得ない教師の悩み, 「教育相談研究」実務教育出版, 1990, No. 58, 6-9.
- (4) 居心地のよい学級の条件, 「教育心理」, 日本文化科学社, 1990, Vol. 38, No. 5, 12-17.
の4編がある。

III. その他

学会発表関係では、

- (1) 「個人と集団」日本グループ・ダイナミックス学会シンポジウム：指定討論者（1989, 11月）
- (2) 「態度変容と地域社会の意識変革」中国社会心理学会第三次会員代表大会招待講演（1990, 8月）
の発表を行った。

また、特定研究の一貫として、1990年3月に、「異文化接触と教育—国際化時代の成長を考える—」というシンポジウムを開き企画・司会者となった。現在、その結果をもとに、これに関する研究を発展させる研究に取り組んでいる。

この他、現在、青少年教育実践効果検証のための現場研究として、中都市、農山村の中の特定地区を選定し、地域社会における意識変革のための現場実験を行い、その教育効果を吟味するための過程観察を行っている。また、「お金に対する態度の次元」を探り、測定尺度を作り、これと個人的価値観との関係を検討中である。